昔は、開拓さへすれば土地はタダで手に入つたのだ。誰も土地は私有せず家族や部落が中心で共通に利用してゐたのだが、いつの間にか强者の私有となり、無智な小作人が他の小作人の田ほしさに自ら年貢を增額して借りたり地主におどされ不當增額を承諾されたりして今日の如き小作料となつたので決して双方公平冷靜に定めたのではないのだ然るに惡地主になると自分はフトコロ手をして婪狂ひで遊んでをりながら實際の耕作者たる小作人が餓えようが死なうが知らぬ顔で、一旦きめた小作料は一合も引かずにマキあげようとするからこそ止むなく農民組合に加入して鬪ふようになるのだ。

この北九州不動產會社の創立趣意書に從ふと資本は僅か三萬圓であるのに利益は一ケ年一萬千圓をあげようと云ふ横着モノだ。ソレも砂糖を製造するとか、バスを經營するとかの社會公共に役立